

群 教 セ	G02 - 02
	平26.254集
	社会 - 小

# より良い社会の形成に向けた課題と解決策 について考える力を培うための指導の工夫

——付箋紙を利用したワークシートを活用し、  
より良い社会に向けたメッセージ書く活動を通して——

特別研修員 佐藤 真樹

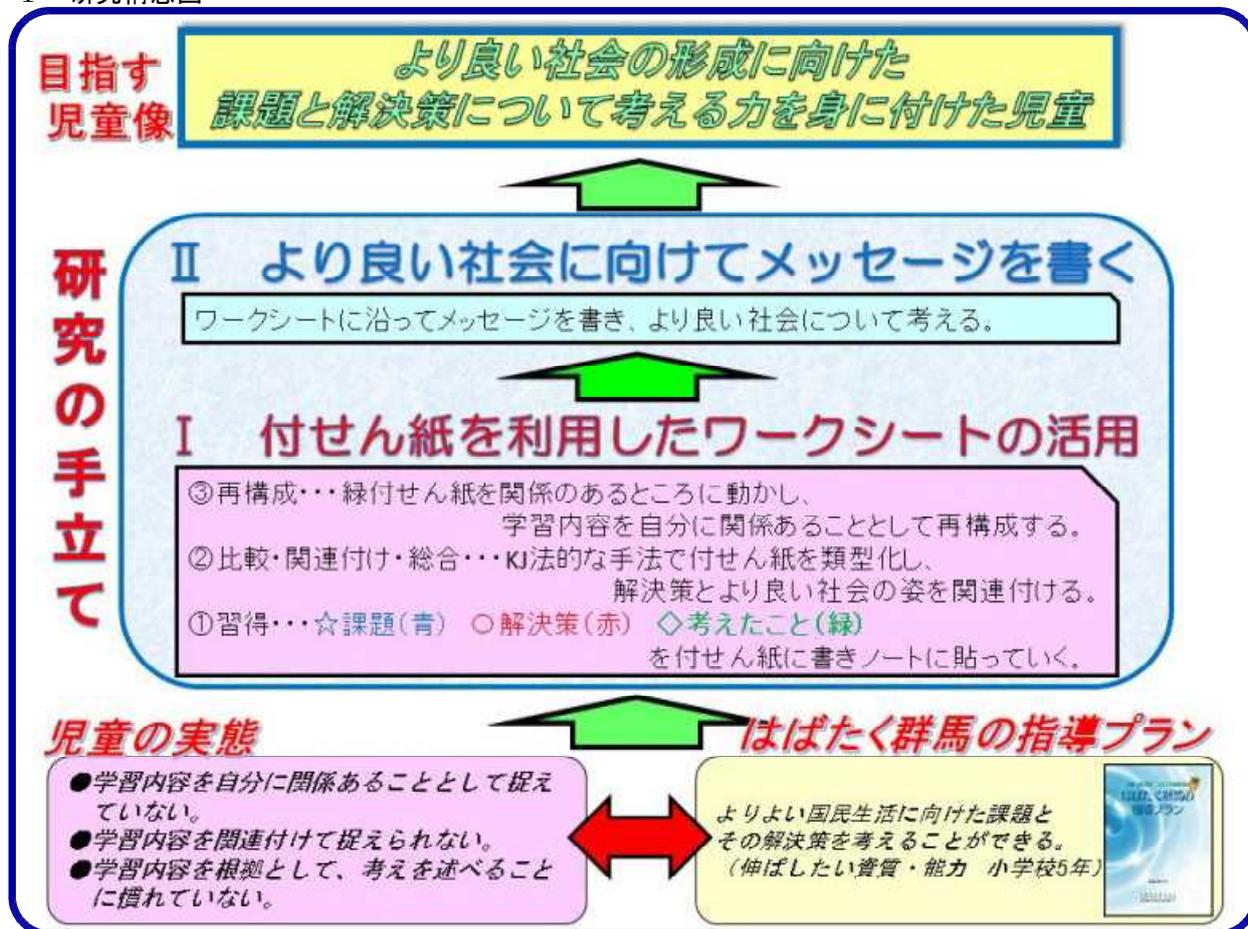
## I 研究テーマ設定の理由

『はばたく群馬の指導プラン』には、社会の課題と解決に向けて伸ばしたい資質・能力(小学校5年)として、「より良い国民生活に向けた課題とその解決策を考えることができる」ことが挙げられている。より良い社会に向けて、自分にはどんなことができるのかを考える中で、自分たちを取り巻く社会の課題と、その解決策を学習内容を基に考える力が求められている。しかし、小学校高学年の社会科で学習する内容は膨大で多岐に渡っており、児童が日常生活との関わりを感じていないものも多いため、学習内容を自分に関係があることとして捉えたり、関連付けて捉えたりすることは困難である。また、本学級の児童は、学習内容を根拠として考えを述べることに慣れていない。

そこで、学習の中で習得した知識や考えたことを視覚的に整理し、比較・関連付け・総合するなどして再構成したり、文章化したりすることで、より良い社会の形成に向けた課題と解決策をについて考える力を培うことができると考え、本研究テーマを設定した。

## II 研究内容

### 1 研究構想図



## 2 授業改善に向けた手立て

### (1)実践1「米作りのさかんな庄内平野」(大単元 「わたしたちの生活と食料生産」)

実践1では、より良い社会を考えるために次のような手立てを試みた。

- ①米作りに関する課題を青付箋紙、解決策である人々の努力や工夫を赤付箋紙に書く。
- ②考え・まとめる過程では、これまでの学習で課題や解決策を書いた付箋紙をワークシートに沿って操作し、より良い社会に向けたメッセージを書く。

より良い社会について考えていくためには、その基となる知識が必要であると考え、毎時間の学習において、日本の米作りに関する課題や、解決策である人々の努力や工夫に関することを付箋紙に書くようにした。そして、考え・まとめる過程では、これまでの学習で課題や解決策を書いた付箋紙をワークシートに沿って操作し、より良い社会に向けたメッセージを書くようにした。その結果、全ての児童が日本の米作りに関する課題と、その解決策を述べることができた。しかし、ただ解決策を並べるだけで、それを行うと、どのようなより良い社会になるのかということを示べられていた児童はほとんどいなかった。また、解決策と自分にできることが関連付けられない児童がほとんどであった。

### (2)実践2「これからの食料生産とわたしたち」(大単元 「わたしたちの生活と食料生産」)

実践2では、解決策とより良い社会の姿を関連付けるための手立てや、学習内容を自分に関係あることとして捉えるための手立てが必要であると考え、新たに次のような手立てを行うこととした。

- ③解決策が書かれた赤付箋紙をKJ法的な手法で類型化した。見出しは、(それを行うと)「どんな良いことがあるか」とした。
- ④学習中に自分が考えたことを緑付箋紙に書き、ワークシート上で操作する。緑付箋紙を書く際の視点は、「自分ならこうしたい」、「不安に思うこと」、「感心したこと」とした。

手立て③により、「地産地消を行うと、輸送による二酸化炭素排出量が減り、食料を作る環境が良くなる」というように、自分が取り上げた解決策とより良い社会の姿を関連付けて捉えられる児童が多くなった。また、手立て④により、毎時間の学習で考えたことをメッセージに取り入れることができたため、学習内容を自分に関係があることとして再構成できる児童が増えた。

#### 付箋紙を利用した ワークシート活用の流れ

- I 課題、解決策、考えたことを付箋紙に書きノートに貼る。
- II 付箋紙をKJ法的な手法で類型化する。
- III 付箋紙を、ワークシート上で操作し学習内容を再構成する。
- IV ワークシートに沿ってメッセージを書き、より良い社会について考える。

※詳細は授業実践2 図2を参照

## III 研究のまとめ

### 1 成果

- 学習中に習得したことや考えたことを付箋紙に書き、ワークシート上で操作することにより、学習内容を視覚的に整理することができたので、より良い社会に向けた課題と解決策を考える力を培うことができた。
- 緑付箋紙に「自分ならこうしたい」、「感心したこと」などを書き、それらを蓄積、整理することによって、学習内容を自分に関係があることとして再構成できたので、「甘楽(群馬、日本)に生まれて良かった」、「地域の発展の役に立ちたい」といった、社会参画の意識を培うことにもつながった。

### 2 課題

- ワークシートに沿って自分の考えをまとめていくため、画一的な内容になりやすい。ワークシートの内容を吟味し、多様な考えを引き出せる工夫が必要と言える。

### 3 提言

- 付箋紙を利用したワークシートを活用した学習は、産業以外にも、地理的分野で地域的課題と解決策を考えたり、公民的分野で現代的課題と解決策を考えたりする際にも有効だと考える。

## ＜授業実践＞

### 実践 1

#### 1 単元名 「米作りのさかんな庄内平野」(第5学年・1学期)

#### 2 本単元及び本時について

稲作は、各地の様々な自然条件に合わせ、農業やそれに関係する人々の努力や工夫を生かしながら営まれているが、近年日本では、米の生産量、消費量ともに減少しており、生産者の高齢化も切実な問題となっている。そうした実態を理解し、日本の米作りをより良くしていくための課題と解決策を考えられることを目標とした。本単元を、以下のように構成した。(全9時 本時は第9時)

表1 「米作りのさかんな庄内平野」単元計画

過程	時	主な学習
つかむ	①	○単元を貫く学習課題「日本の米作りを元気にする方法を考えよう」を設定する。
追究する	②～⑧	○庄内平野の自然条件を調べる。 ○米作りに関する人々の努力や工夫(品種改良・機械化・共同作業・輸送など)の意味について考え、理解する。 ○日本の米作りに関わる課題(高齢化・生産調整・農業など)について調べる。
考え・まとめる	⑨	○付箋紙を操作しながら、ワークシートに沿って日本の米作りを元気にするためのメッセージを書き、より良い日本の米作りについて考える。

考え・まとめる過程では、日本の米作りを元気にするためのメッセージを書き、より良い社会について考えていく。そのためには、その基となる知識が必要であるため、追究する過程において、児童一人一人が、米作りの課題に関しては青い付箋紙に、解決策である人々の努力や工夫に関しては赤い付箋紙に書き、ノートの関係のある記述の近くに貼っていくことにした。

#### 3 授業の実際

##### (1) 実際の展開

まず、これまでの学習の中で記入した全ての青い付箋紙と赤い付箋紙をワークシートのそれぞれの場所に貼り、自分が最も課題だと思うことが書かれている青い付箋紙だけを残すようにした。次に、その課題を解決するために必要な解決策が書かれている赤い付箋紙を選択し、ワークシートに沿ってメッセージを書くようにした。

その後、意図的に指名された児童がメッセージを発表し、様々な考えに触れる機会を設けた。

##### (2) 児童が書いたメッセージの検証

児童が書いたメッセージから、より良い社会の形成に向けた課題と解決策を考える力を培うことができたのかを、次の四つの項目で検証した。

- ①課題と解決策に整合性がある。
- ②その解決策を行うと、(社会にとって)どんな良いことがあるのかを考えている。
- ③課題を解決するために、自分にできることを考えられている。
- ④解決策と自分にできることを関連付けて考えている。

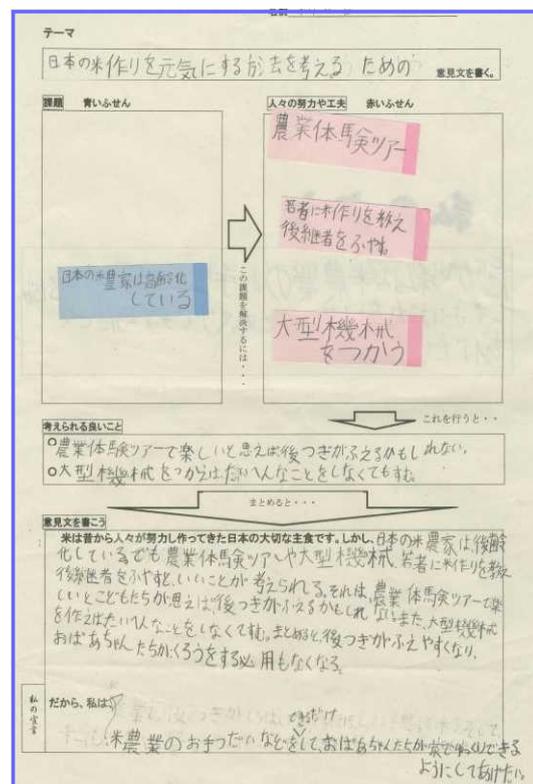


図1 付箋紙を利用したワークシート①

以下に実際に児童が書いたメッセージを抜粋し、検証する。なお、文中の（ ）内の番号は前頁の四つの検証項目に当たる。

抽出児童AのメッセージⅠ

米は昔から人々が努力して作ってきた日本の大切な主食です。しかし、作る量も食べる量もへってきている。解決策は、お米を使った商品を作るとよいと思う。(①)だから僕は、若者に米作りの大切さを伝えたい。(③)

抽出児童Aは、課題とそれに対する解決策を考えることはできているが、それが社会にとってどんな良いことであるのかを考えるとできていない。また、若者に米作りの大切さを伝えたいと述べているが、考えた解決策とは関係ないことであり、あまり具体的なこととは言えない。

抽出児童BのメッセージⅠ

米は昔から人々が努力して作ってきた日本の大切な主食です。しかし、日本の米農家は高齢化しています。これを解決するためには大型機械を使う。(①)これを行うとおじいちゃん、おばあちゃんの手でも田を耕したり、しゅうかくしたりもできます。あと、若者に米作りを教え後継者を増やすとおじいちゃんたちがいなくても米を作ることができる。(②)だから私は、米を作る若者を増やしていきたい。(③④)

抽出児童Bは、課題とそれに対する解決策を考えることができているが、多少具体性には欠けるものの、その解決策が社会にとってどんな良いことであるのかを考えるとできている。

また、自分にできることとして、米を作る若者を増やしていきたいと述べている点からは、解決策と関連付けて考えられていることが分かる。しかし、その内容は現実的でなく、自分とは関係ないこととして捉えていると推察される。また、本学級31名の

メッセージを検証した結果は、表2のようである。

表2 実践1において児童がより良い社会に向けての課題と解決策について考える力を培うことができたかの検証

	①課題と解決策に整合性がある。	②その解決策を行うと、どんな良いことがあるか考えている。	③課題を解決するために、自分にできることを考えている。	④解決策と自分にできることを関連付けて考えている。
人数(人)	31人	13人	18人	9人
割合(%)	100%	42%	58%	29%

4 考察

- 全ての児童が、課題と整合性のある解決策を考えることができたことから、課題を青い付箋紙に、解決策を赤い付箋紙に書いて毎時の学習で蓄積していくことや、ワークシート上で操作することは有効であると言える。
- 児童が考えた解決策を行うと、社会にとってどんな良いことがあるのかを考えられた児童は42%であることから、ワークシートに書くだけでなく、解決策とより良い社会の姿を関連付けるための手立てや児童同士で考えを深め合える活動を取り入れていく必要があると考えた。
- 課題を解決するために自分にできることを考えることができた児童は58%で、解決策と自分にできることを関連付けて考えることができた児童が29%であることから、児童が学習内容を自分に関係あることとして、捉えられていないことが分かる。
- 毎時の振り返りでは、自分が将来やってみようことや、日本の米作りに対する不安などを述べている児童が多いことから、考えたことを蓄積し、学習内容を自分に関係あることとして再構成するための手立てが必要であると考えた。

## 実践 2

### 1 単元名 「これからの食料生産とわたしたち」 (第5学年・2学期)

### 2 本単元及び本時について

わが国の食料生産には、働く人の減少、環境への影響、安全性、低自給率などの問題点がある。そして、安心安全な食料確保のための食糧生産の在り方や自らの関わり方を考えることを目標とした。本小単元は、食料生産に関する学習のまとめとして位置付けられているため、これまでの米作りや水産業の学習を生かしていくことを目指している。本単元を、以下のように構成した。(全7時 本時は第7時)

表3 「これからの食料生産とわたしたち」単元計画

過程	時	主な学習内容
つかむ	①	○スーパーの見学や保護者アンケートから、人々の食料生産に対する願いを考える。
	②	○単元を貫く学習課題「日本の食料生産の、より良い未来について考えよう」を設定する。
追究する	③～⑤	○日本の食料生産の現状と課題(低自給率、環境と食料生産、食の安全等)について理解する。 ○食料生産の新たな取組(地産地消、棚田オーナー、ネット販売など)について理解する。
考え・ まとめる	⑥	○食料生産の課題をグループで一つ取り上げ、その解決策をKJ法的な手法で類型化する。
	⑦	○付箋紙を操作しながら、ワークシートに沿ってメッセージを書き、より良い日本の食料生産について考える。

実践1をふまえ、解決策が書かれた赤付箋紙を、KJ法的な手法で類型化する学習を取り入れることにした。見出しは、「(社会にとって)どんな良いことがあるか」とした。また、新たに学習中に自分が考えたことを緑付箋紙に書くことで、「自分ならこうしたい」、「不安に思うこと」など、学習中に考えたことを蓄積できるようにした。具体的には、図2のようである。

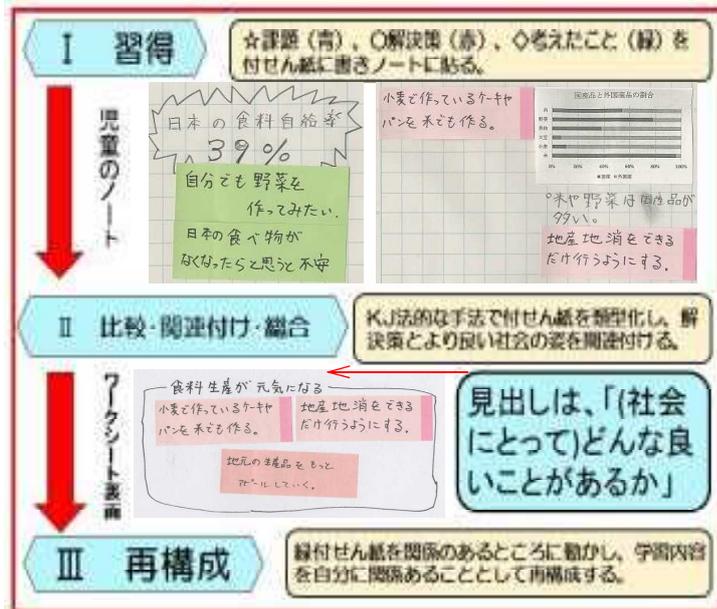


図2 付箋紙を利用したワークシート活用の流れ

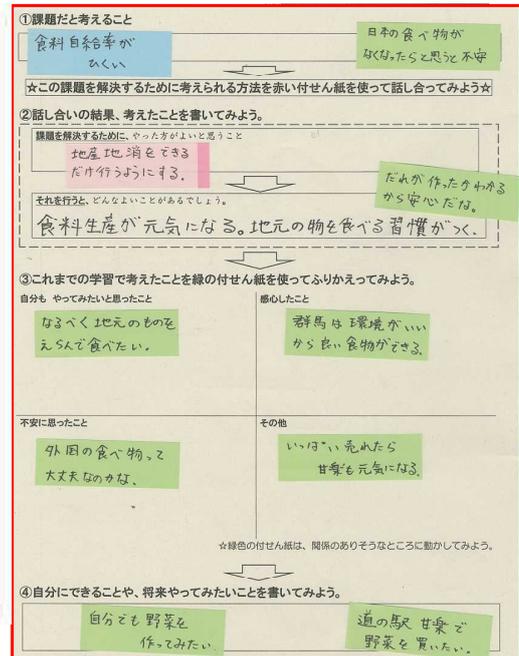


図3 付箋紙を利用したワークシート②

### 3 授業の実際

#### (1) 実際の展開

メッセージを書く際の注意点として、赤付箋紙(解決策)と緑付箋紙(考えたこと)が整合性を持つようにすることを挙げた。そのために、課題だと思ふことが同じ児童を4人のグループとし、ワークシートの内容やメッセージを見合う活動を取り入れた。整合性が乏しい場合は、指摘し合ったり、良い考えには小さな付箋紙に「いいね」などと書き、メッセージに貼ったりすることで、付箋紙を利用したワークシートをより効果的に活用することを目指した。

## (2) 児童が書いたメッセージの検証

以下に児童が書いたメッセージを抜粋し、検証する。なお、検証の観点は、実践1と同様である。

### 抽出児童AのメッセージⅡ

僕は小学校5年生の時に日本の食料生産のよりよい未来について勉強しました。僕は、日本の食料生産がおとろえていることが課題だと考えました。その課題を解決するためには、みそのように地元のものを使っているいろいろなものを作る活動をやった方がよいと思いました。(①) それを行うと、地元で農業をやりたいという人が増え、安心安全なものも食べられるので、食料生産が元気になります。(②)僕は将来、こんなことをやりたいと思いました。それは、家の近くで野菜や大豆を作って自分で食べることです。(③④)

### 抽出児童BのメッセージⅡ

僕は日本の食糧自給率が低いことが課題だと思います。このままでは日本の品質のよい食べ物が食べられなくなってしまうかと不安です。そこで解決策を考えました。それは地産地消をもっとたくさん行い、地元で作ったものをたくさん食べることだと思います。(①)すると、安心安全な食べ物を作ったり食べたりする習慣が広がり、食糧自給率も少しずつ上がっていくと思います。(②)僕は、都会よりも安心安全な食べ物が食べられる群馬県で生活できてよかったと思います。だから僕は、地元のものをたくさん食べるために、今日から道の駅甘楽をたくさん利用していきたいと思います。(③④)

どちらの児童も、実践1と比べて、具体性のある内容を考えることができている。抽出児童Aは自分の取り上げた解決策が社会にどんな良いことがあるのかを考えることができている。解決策をKJ法的手法で類型化した学習をふまえて考えをまとめていった結果と言える。抽出児童Bは、自分の住んでいる地域のことを取り上げ、すぐに実践できることを考えることができた。抽出児童Bは、毎時の学習内容を自分の身近なことに置き換え、緑付箋紙に考えたことを書いてきた。その蓄積により、学習内容を自分に関係あることとして再構成できるようになったと考えられる。

本学級31名のメッセージを検証した結果は、以下のようである。

表4 実践2において児童がより良い社会に向けての課題と解決策について考える力を培うことができたかの検証

	①課題と解決策に整合性がある。	②その解決策を行うと、どんな良いことがあるか考えている。	③課題を解決するために、自分にできることを考えている。	④解決策と自分にできることを関連付けて考えている。
人数(人)	31人(+0人)	28人(+15人)	31人(+13人)	21人(+12人)
割合(%)	100%(+0人)	90%(+48%)	100%(+42%)	68%(+39%)

※ ( ) 内の数字は、実践1との比較

## 4 考察

- 緑付箋紙(考えたこと)の蓄積と整理によって、学習内容を自分に関係があることとして捉えることができ、解決策と自分にできることを関連付けて考えることができた児童が、68%と実践1より大きく増加した。また、「甘楽(群馬、日本)に生まれて良かった」、「地域の発展の役に立ちたい」といった、社会参画の意識を持つことができた児童が10名いた。学習中に考えたことも知識と同様に視覚的に蓄積したり、整理したりすることで、学習内容を自分に関係があることとして再構成することができる。その際に、ワークシートを活用することで、情報をより効果的に整理したり、再構成したりできるので、考えがまとめやすくなったと言える。
- メッセージを書き、友達や家族に伝えたり、校内に掲示したりすることで、自分が社会と関わり、その一員であると認識できるようになった。それにより、もっといろいろな社会的事象に目を向け、課題や解決策を考えてみようという意識が育っていくと考える。
- 以上のことから、付箋紙を利用したワークシートを活用し、より良い社会に向けたメッセージを書く活動は、より良い社会の形成に向けた課題と解決策について考える力を培うのに有効であったと言える。